

種名 コナラ
万葉時代の呼名 母蘇



詠人 藤原宇合

万葉集卷九 一七三〇

山科の石田の小野のははそ原
見つか君が山路越ゆるむ

【現代訳】

山科の石田のコナラ林を、あの方は眺めながら、山道を越えて行っているの
であろうか

【コナラの解説】 ブナ目ブナ科コナラ属の落葉広葉樹

高さは10mほどになる。樹皮は赤褐色できめが細かい。葉は両端のとがった楕円形で互生。日本では雑木林に多く見られる。葉は長楕円形で縁にとがった鋸歯がある。花は4 - 5月、若葉が広がる時に咲き、秋に実(ドングリ)が熟す。樹皮は灰色で、縦に裂け目ができる。

落葉樹だが、秋に葉が枯れた時点では葉柄の付け根に離層が形成されないため葉が落ちず、いつまでも茶色の樹冠をみせる。春に新葉が展開する所に枯れた葉の基部の組織で離層が形成され、落葉が起きる。

材は木炭の原料や、シタケの原木に使われる。多くの菌類と菌根を作るため、コナラ林には多くの菌根性のきのこが出現する。

クヌギ、アベマキと並んで人里の薪炭材とされ、重要な燃料源であったが、1960年頃以降、燃料の需要の主力が木材から化石燃料へと変化したことで、薪炭林としての位置づけは失われた。